



2025年3月期 第2四半期

決算説明資料

2024年11月25日

証券コード:3741

 **株式会社セック**
SEC Systems Engineering Consultants Co.,LTD.

目次

- 事業分野
- 第2四半期決算概要
- 通期業績見通し
- 重点テーマ

事業分野 (BF)

会社理念「社会の安全と発展のために」

社会の安全と発展にかけがえのない一流のソフトウェア会社となる

- 1970年の創業以来、コンピュータシステムの普遍的な設計技術である「リアルタイム技術」を中核として成長
- 「リアルタイム技術」が必要とされる分野で、「社会の安全と発展」に貢献する分野が、当社の事業分野
- 社会基盤システムと宇宙先端システムの2つの創業来の事業分野に、時代の変化とともに、新しい事業分野が加わっている

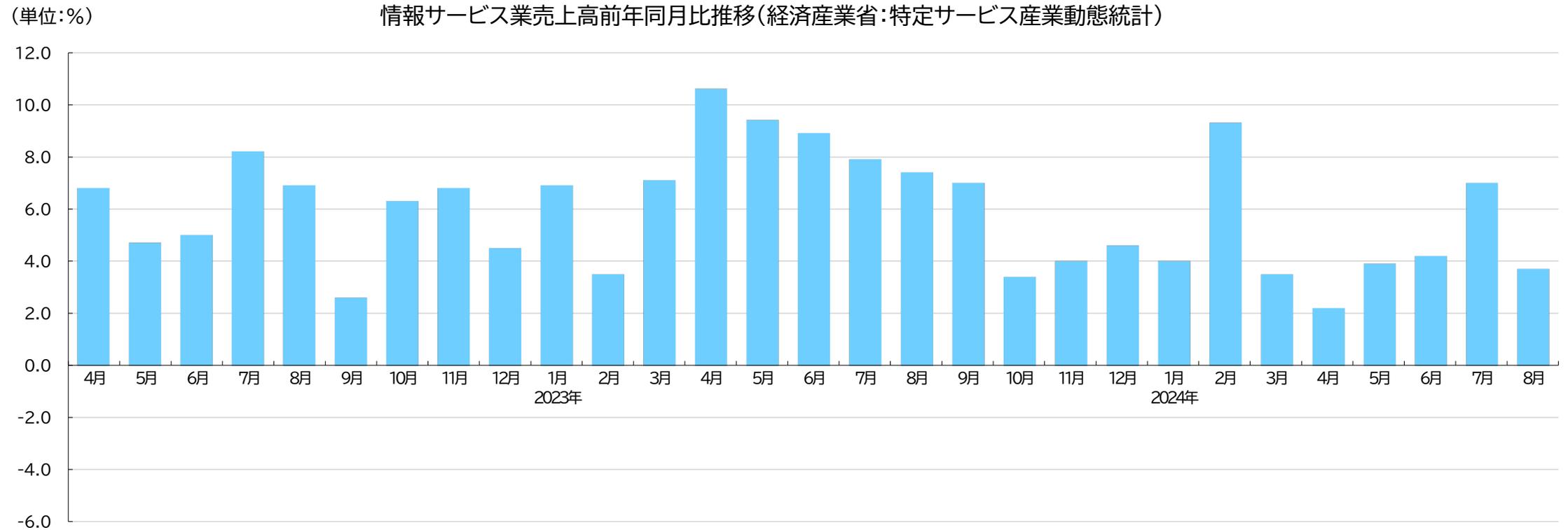


2025年3月期 第2四半期

決算概要

事業環境

2023年4月以降の月別売上高は前年同月比で増加しており、IT需要は全体的には概ね堅調と推察される



2025年3月期第2四半期総括

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高、前年同期比で増収増益

	当期（百万円）	前年同期比	利益率
売上高	4,495	+14.8%	
営業利益	764	+20.7%	17.0%
経常利益	809	+21.8%	18.0%
当期純利益	566	+22.2%	

受注高、受注残高ともに過去最高

	当期（百万円）	前年同期比
受注高	5,892	+42.1%
受注残高	7,166	+79.5%

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

官公庁向けの開発が引き続き好調であり、医療分野や防衛分野の開発も増加するなど、需要構造の変化に全BF最適化の視点で対応した。

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高となり、増収増益となった。

受注高は前年同期を上回り過去最高となり、受注残高も過去最高となった。

第2四半期損益計算書

	2024年3月期第2四半期 (百万円)	2025年3月期第2四半期 (百万円)	前年同期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	3,915	4,495	114.8	4,150	108.3
売上原価	2,751	3,103	112.8	2,820	110.1
売上総利益	1,163	1,391	119.6	1,330	104.6
販売管理費	530	627	118.3	680	92.3
営業利益 (営業利益率)	633 (16.2%)	764 (17.0%)	120.7	650 (15.7%)	117.5
経常利益 (経常利益率)	664 (17.0%)	809 (18.0%)	121.8	690 (16.6%)	117.3
当期純利益	463	566	122.2	480	118.0

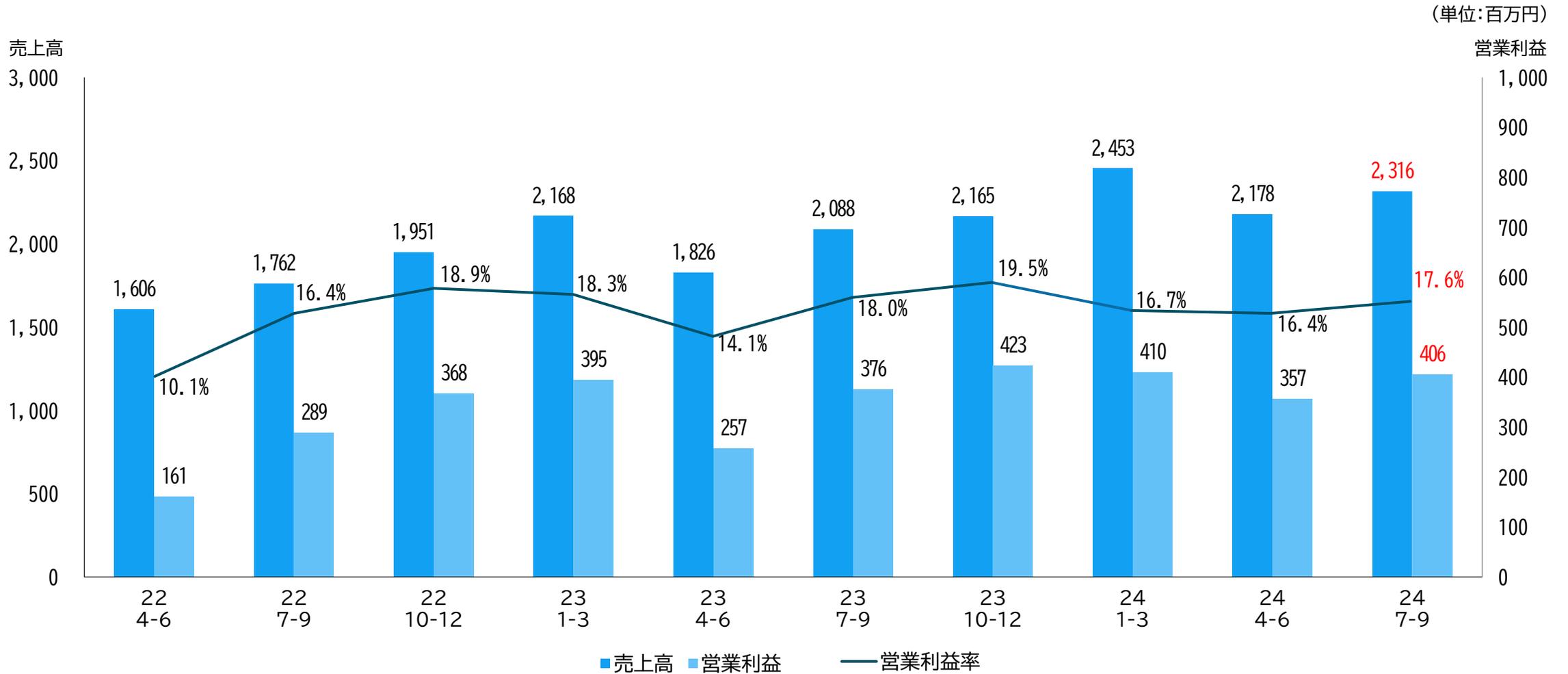
売上原価 外注費が大幅に増加（外注費 16.1億円、前年同期比23.9%増／売上高外注比率36.0%、前年同期比2.6%増）

販売管理費 新入社員の増加などにより労務費が増加、研究開発費は61百万円で、前年同期比で110.2%増

営業外損益 研究開発の補助金収入が増加（15百万円、前年同期比296.2%増）

四半期業績推移(PL)

2021年度第3四半期から、12四半期連続の増収増益

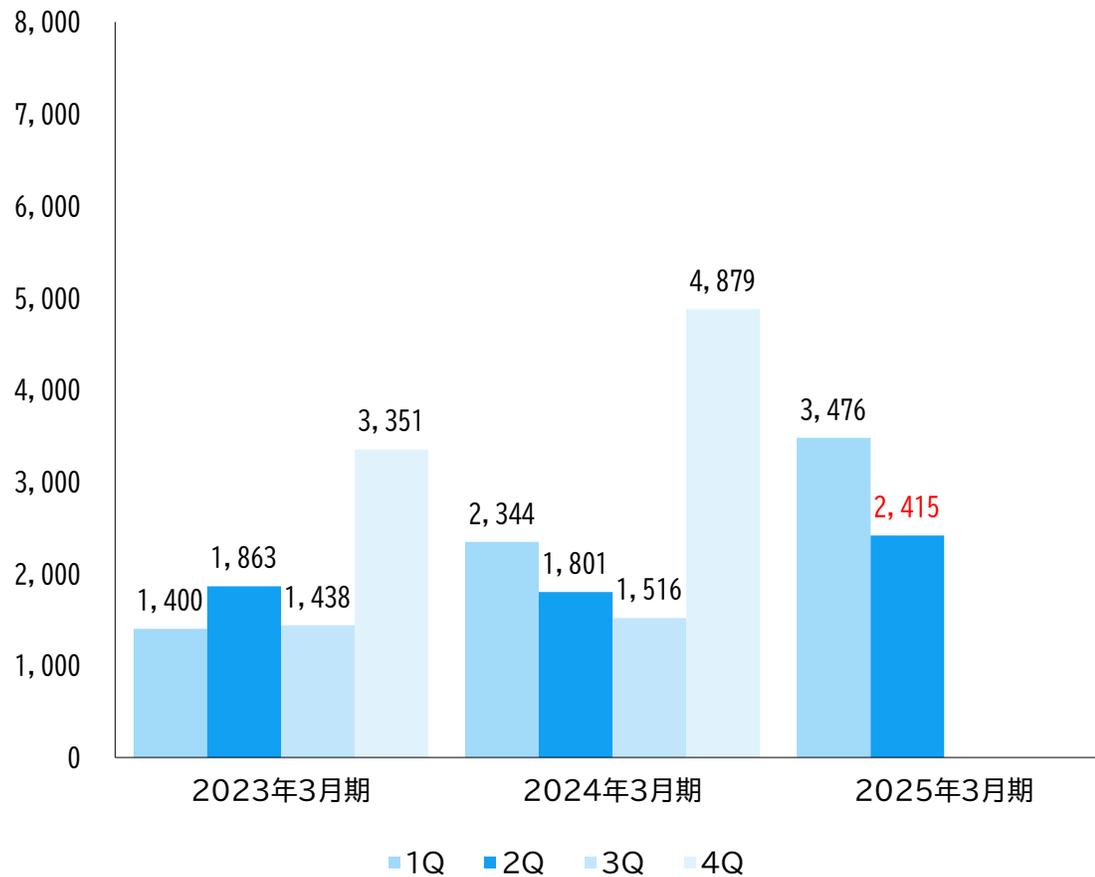


四半期業績推移(受注状況)

受注高、受注残高ともに過去最高

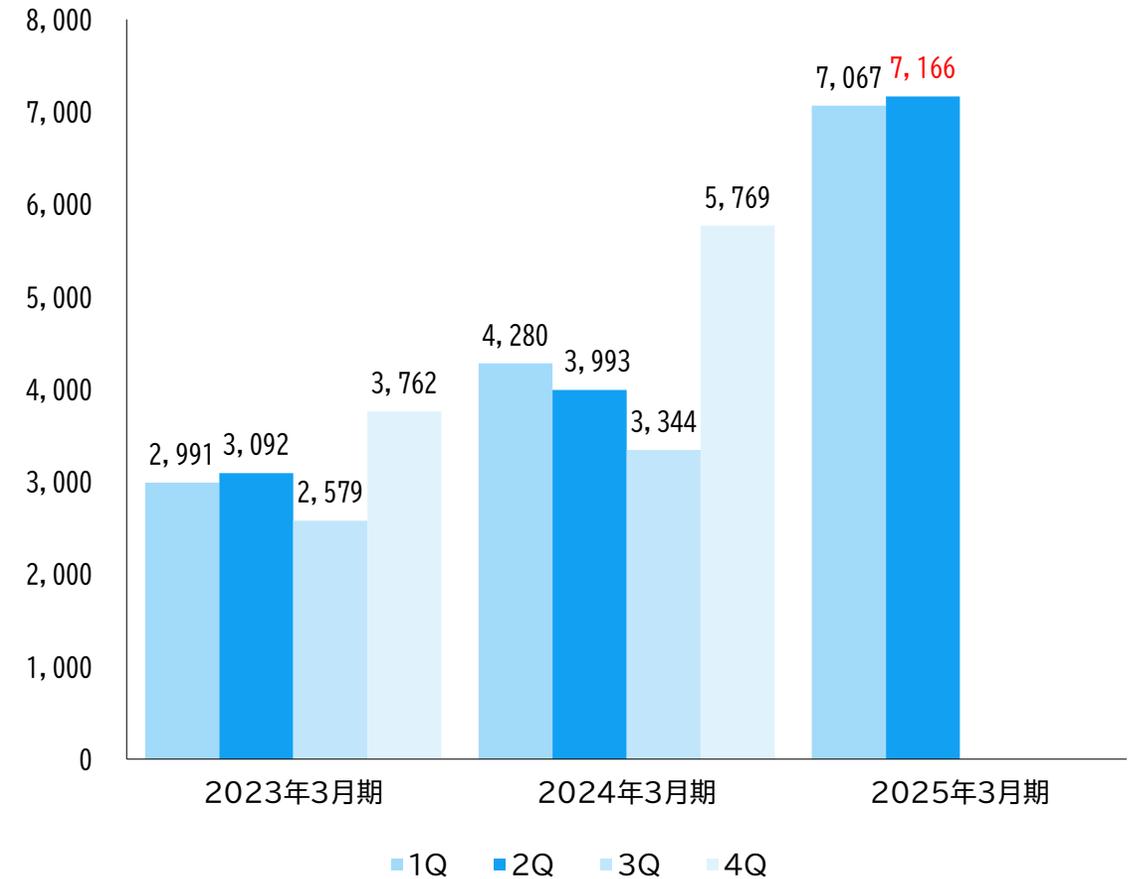
(単位:百万円)

受注高



(単位:百万円)

受注残高



第2四半期BF別の状況

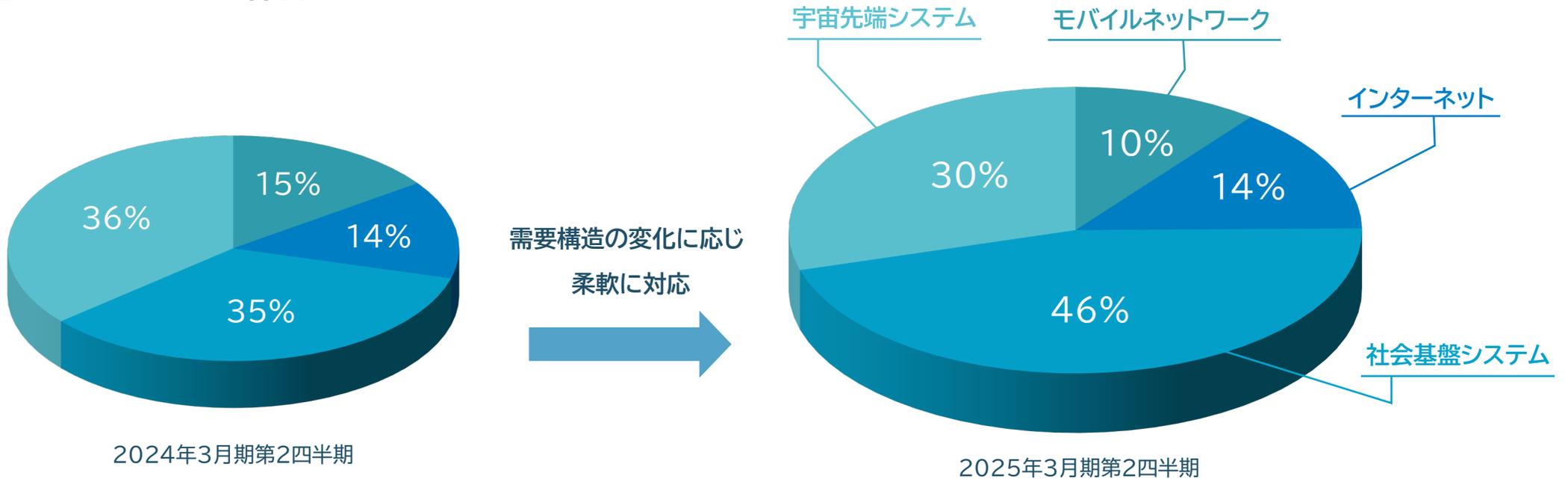
社会基盤システムBF、インターネットBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2024年3月期第2四半期		2025年3月期第2四半期		前年同期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	
モバイルネットワーク	596	15.2	470	10.5	78.9
インターネット	552	14.1	642	14.3	116.3
社会基盤システム	1,349	34.5	2,055	45.7	152.3
宇宙先端システム	1,416	36.2	1,326	29.5	93.7
合計	3,915	100.0	4,495	100.0	114.8

- モバイルネットワークBFは、スマートコンストラクション関連の開発が引き続き堅調であるものの、XR(クロスリアリティ)サービス関連の開発が減少
- インターネットBFは、民間企業向けのDX関連の開発が増加
- 社会基盤システムBFは、環境分野や福祉分野をはじめとした官公庁向けの開発が引き続き好調であることに加え、医療分野や防衛分野の開発も増加
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行の研究開発案件が増加したものの、前期のサービスロボット関連の大型案件の反動により減少

第2四半期BF別売上構成比

社会基盤システムBFが増加



モバイルネットワークBF

スマートコンストラクション関連の開発が引き続き堅調であるものの、XR(クロスリアリティ)サービス関連の開発が減少

インターネットBF

民間企業向けのDX関連の開発が増加したが、全体構成比では変動なし

社会基盤システムBF

環境分野や福祉分野をはじめとした官公庁向けの開発が引き続き好調であることに加え、医療分野や防衛分野の開発も増加

宇宙先端システムBF

車両自動走行の研究開発案件が増加したものの、前期のサービスロボット関連の大型案件の反動により減少

第2四半期BF別受注状況

医療分野の大型長期案件の受注により、社会基盤システムBFの受注高と受注残高が大幅に増加

ビジネスフィールド	2024年3月期第2四半期		2025年3月期第2四半期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前年同期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同期比 (%)
モバイルネットワーク	640	329	478	74.8	242	73.7
インターネット	634	324	679	107.1	359	110.7
社会基盤システム	1,345	2,614	3,307	245.9	5,576	213.3
宇宙先端システム	1,526	725	1,426	93.5	987	136.2
合計	4,145	3,993	5,892	142.1	7,166	179.5

※ 受注残高のうち、今期売上貢献分は4,296百万円(前年同期比44.6%増)、来期以降売上貢献分は2,869百万円(前年同期比180.8%増)

- モバイルネットワークBFは、XR(クロスリアリティ)サービス関連の受注が減少
- インターネットBFは、民間企業向けのDX関連の受注が増加
- 社会基盤システムBFは、環境分野や福祉分野をはじめとした官公庁向けの受注が増加、また、医療分野や防衛分野の受注が大幅に増加
- 宇宙先端システムBFは、前年同期のサービスロボット関連の受注大幅増の反動で減少

第2四半期期末貸借対照表

	2024年3月末日(百万円)	2024年9月末日(百万円)	増減(百万円)
流動資産	7,785	7,612	▲172
固定資産	2,323	2,487	164
流動負債	1,540	1,351	▲188
固定負債	170	195	25
純資産	8,398	8,553	154
総資産	10,108	10,100	▲8
自己資本比率	83.1%	84.7%	1.6%
流動比率	505.5%	563.5%	57.9%
固定比率	27.7%	29.1%	1.4%

流動資産 売上債権の減少、現金及び預金の増加などによる減少

固定資産 投資有価証券の取得などによる増加

流動負債 賞与引当金の減少などによる減少

第2四半期キャッシュ・フロー計算書

	2024年3月期第2四半期 (百万円)	2025年3月期第2四半期 (百万円)	増減 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,154	1,717	562
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲104	▲320	▲216
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲351	▲443	▲91
現金及び同等物の増減額	699	953	254
現金及び同等物期末残高	3,775	3,921	146

営業キャッシュ・フロー 売上債権の減少、税引前利益の増加などによる収入増

投資キャッシュ・フロー 投資有価証券の取得額の増加などによる支出増

財務キャッシュ・フロー 配当金支払額の増加などによる支出増

2025年3月期

通期業績見通し

2025年3月期業績見通し

売上高、利益面ともに計画を上回る見込みであるため、業績見通しを上方修正

	2024年3月期実績(百万円)	2025年3月期業績予想(百万円)	前期比(%)
売上高	8,534	9,550	111.9
売上原価	5,983	6,680	111.6
売上総利益	2,550	2,870	112.5
販売管理費	1,083	1,190	109.8
営業利益 (営業利益率)	1,467 (17.2%)	1,680 (17.6%)	114.5
経常利益 (経常利益率)	1,547 (18.1%)	1,770 (18.5%)	114.3
当期純利益	1,105	1,230	111.3

売上高 官公庁向けの開発が好調であることに加え、医療分野や防衛分野の開発も大幅に増加し、前期比約12%増を見込む

売上原価 社員数増加や待遇向上による人件費の増加、外注費の増加などにより、増加を見込む

販売管理費 新入社員の増加などによる労務費の増加、研究開発の増加などにより、増加を見込む

営業外損益 研究開発の補助金収入の増加などにより、増加を見込む

当期純利益 前期は賃上げ促進税制の適用により増加したが、今期は税金費用を法定実効税率どおりで計算

2025年3月期BF別業績見通し

社会基盤システムBF、インターネットBFが想定を上回る増加幅となる見込み

ビジネス フィールド	期初の想定	予想	第2四半期状況判断	予想
モバイル ネットワーク	スマートコンストラクション関連の開発が引き続き堅調であるものの、XR(クロスリアリティ)サービス関連の開発が減少し、微減	➡	スマートコンストラクション関連の開発が堅調であるものの、XR(クロスリアリティ)サービス関連の開発が想定以上に減少し、下回る展開	➡
インターネット	民間企業向けのDX案件が継続するものの、他のBFとの人員配分の最適化により、前期並み	➡	民間企業向けのDX関連の開発が増加し、増加を見込む	➡
社会基盤 システム	環境分野や医療・福祉分野をはじめとした官公庁向けの開発が引き続き好調で、増加	➡	環境分野や福祉分野をはじめとした官公庁向けの開発が好調であることに加え、医療分野の大型案件や防衛分野の開発が増加し、想定を上回る展開	↗
宇宙先端 システム	サービスロボット関連の研究開発案件や宇宙関連の開発が堅調に推移し、増加	➡	前期のサービスロボット関連の大型案件の反動があるものの、車両自動走行の研究開発案件が増加し、微増を見込む	➡

2025年3月期

重点テーマ

先端技術を窮め、 オープン・イノベーションで事業成長を目指す

「研究開発」

1. 1社完結の研究開発以外に、大学や国、企業の研究機関、ハードウェアベンダとの最先端技術でのアライアンスを積極的に推進する。
2. 特に、AIやチップ開発、無重力環境で動作するロボットなど、新しい技術の研究に注力する。

「高付加価値化」

1. 情報科学、統計などのアプローチから有益な知見やビジネス上の便益を見出すことで、さまざまなビジネス変革の可能性を提案する。
2. 研究開発・製品開発活動により得たニューエレメント(革新的技術、標準化技術、ソリューション製品、特許など知的財産権、新ビジネスモデルなど)を核として、主体的なビジネスを推進する。

「人的資本投資」

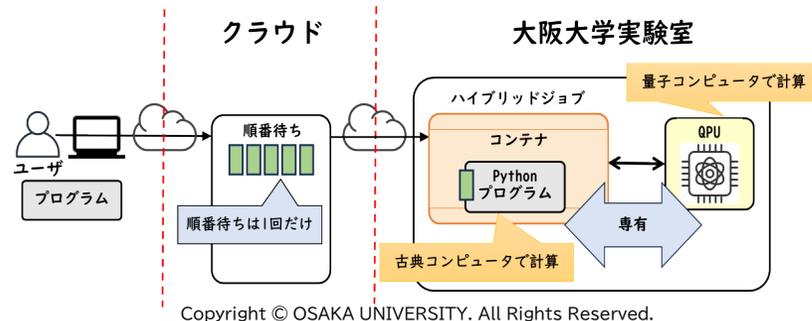
1. AI、デザイン思考、データサイエンス、セキュリティ、クラウドを中心に技術教育を強化する。
2. ロボットやFPGAなどハードウェアにも強い人材育成を強化する。

研究開発：量子ソフトウェア

量子コンピュータは従来のコンピュータを凌駕する計算能力を期待されているが、その実用化には量子コンピュータを利用するための量子ソフトウェアが必要となる。当社は、大阪大学を中心とした共同研究チームの一員として量子ソフトウェアの研究開発を進めており、量子コンピュータを利用するためのクラウドソフトウェアの開発、画像処理への量子コンピューティングの応用などに取り組んでいる。

量子計算と古典計算の協調処理を高速化する機能を開発

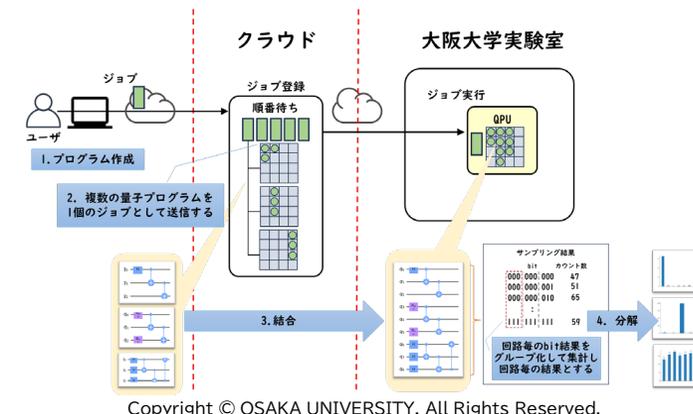
量子計算と古典計算(従来型コンピュータでの演算処理)をかけあわせた協調処理を行う「量子古典ハイブリッドアルゴリズム」を高速に実行する機能を開発し、大阪大学の量子コンピュータ・クラウドサービスで提供を開始した。膨大な待ち時間が発生することがあった量子古典ハイブリッドアルゴリズムを現実的な時間で効率的に実行可能となり、量子古典ハイブリッドアルゴリズムを利用した研究の加速が期待される。



2024年6月17日 当社ニュースリリース：
<https://www.sec.co.jp/ja/news/news-3385344175951921834.html>

量子プログラムを高速化する量子マルチプログラミング機能を開発

利用者が指定した複数の量子プログラムを並列実行する機能(量子マルチプログラミング)を開発し、大阪大学の量子コンピュータ・クラウドサービス上で提供を開始した。量子マルチプログラミングをクラウドサービスで提供するのは世界初である。量子コンピュータ資源を効率的に使用可能となり、量子コンピュータ・クラウドサービスの利用が拡大することが期待される。



2024年10月15日 当社ニュースリリース：
https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto_20241010596522/pdfFile.pdf

研究開発：宇宙×ロボット

PORTRS実証システム開発

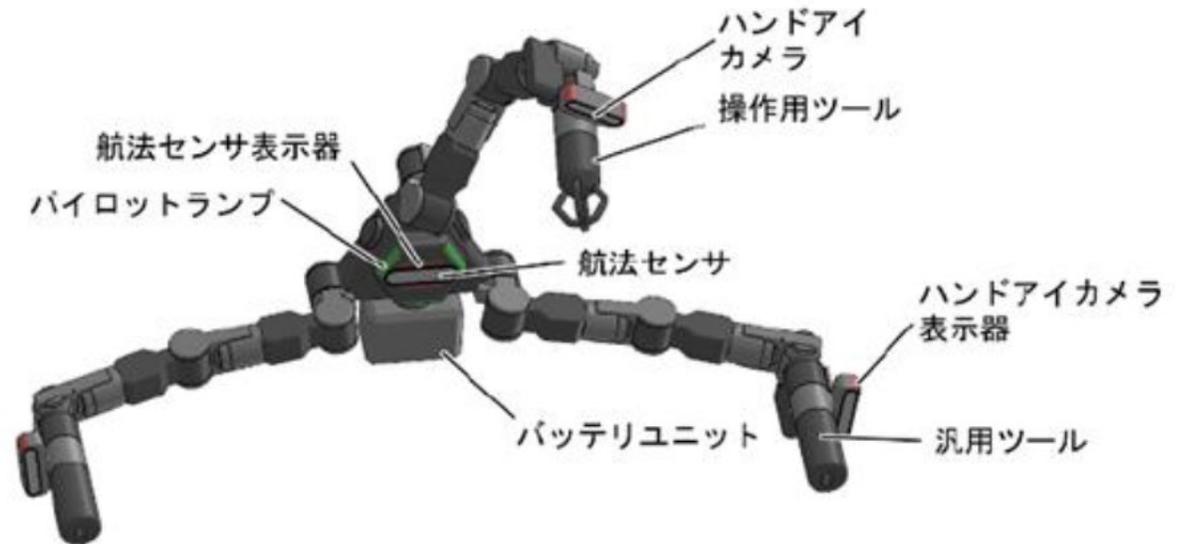
「パイロードの管理・運搬・操作ロボットシステム『PORTRS』ISS実証用システムの開発」(JAXAの技術提案方式の調達案件)

「PORTRS」は、国際宇宙ステーション(ISS)「きぼう」日本実験棟で動作する多肢ロボットを地上から遠隔操作することにより、実験サンプルなどの物品の搬送・操作や、船内の状態の確認・監視を自動化するためのシステムである。ISS船内の作業効率化や宇宙飛行士の作業軽減を目的としている。

2024年3月にスタートした本プロジェクトでは、多肢ロボットを含む「PORTRS」のISS実証用システムの構築及びISSにおける実証運用の支援を行うことを通して、宇宙分野におけるロボティクス技術の高度化を進め、宇宙開発の進展に貢献する。

【開発体制】

代表者 : 株式会社セック
共同提案者: 株式会社浜野製作所
株式会社ウェルリサーチ
コニカミノルタ株式会社



RFP※提案時の多肢ロボット外観イメージ

※JAXAの企画競争入札の技術提案方式(Request for Proposal方式)

2024年3月11日 当社ニュースリリース:

<https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/news71932186239469261.html>

研究開発:「人」と「サイバー・フィジカル空間」の融合 (NEDO公募事業)

住宅・ビル等の人協調ロボティクスの社会実装技術開発

「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期/人協調型ロボティクスの拡大に向けた基盤技術・ルールの整備」(NEDO公募事業)

本プロジェクトでは、「人」と「サイバー・フィジカル空間」が融合した「HCPS(Human-Cyber-Physical Space)融合人協調ロボティクス」の技術開発・社会実装を推進することで、人とテクノロジーが相互に支えあう、テクノピアサポート社会の実現を目指している。

- ・ロボットフレンドリーな環境の構築
- ・人に寄り添う「おもてなしロボットサービス」の実用化・事業化 など

研究代表者: 株式会社セック

共同提案者: 川崎重工業株式会社、国立研究開発法人産業技術総合研究所、名城大学、株式会社キビテク

2023年11月2日 当社ニュースリリース:

https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto_20231101577629/pdfFile.pdf

Topic:第41回 ロボット工学とオートメーションに関する国際会議(ICRA2024)に出展

集合住宅やオフィスビル等で人協調ロボティクスの適用が考えられる共通業務の一例として「荷物受け取り」を想定し、ロボットによる荷物受け取り、受け渡し業務のデモンストレーションを行った。

2024年5月13日 当社ニュースリリース:

<https://www.sec.co.jp/ja/news/news2231692364911527301.html>

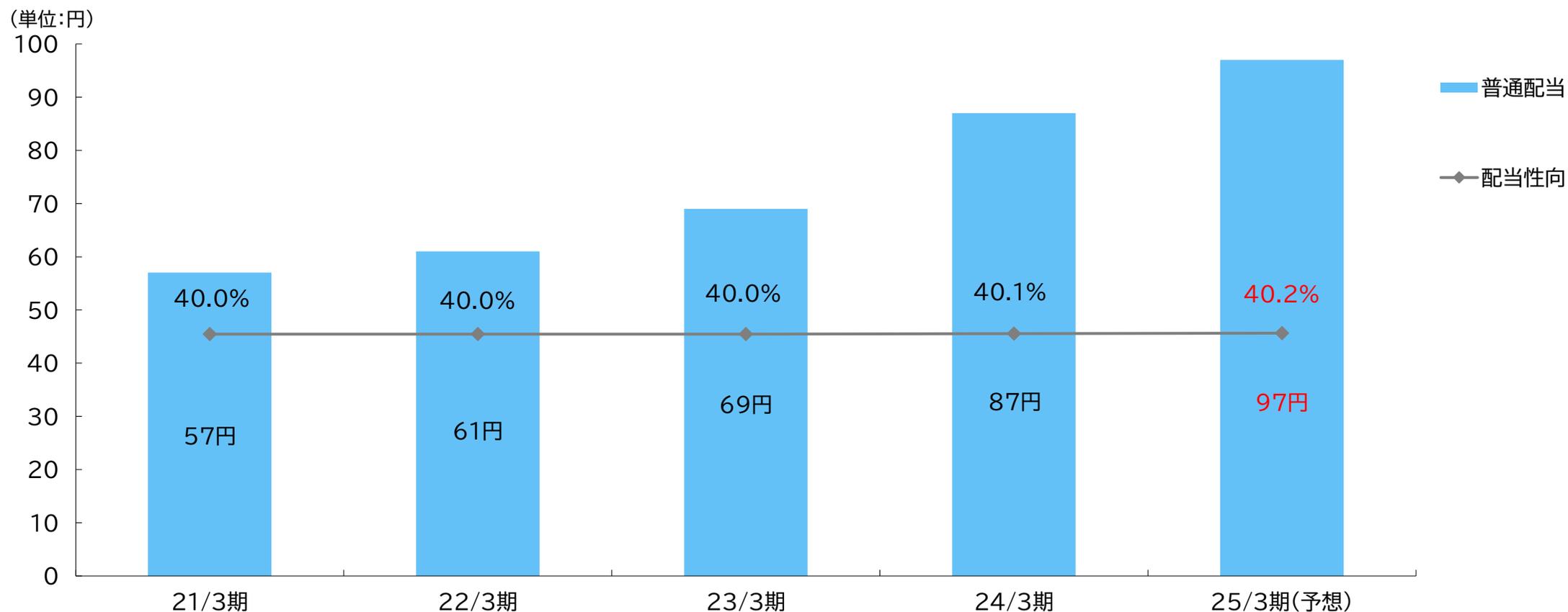


ロボットの動作環境を仮想空間(デジタルツイン)として構築し、仮想空間の環境情報を現実動作するロボットへ、ロボットが得た現実空間の情報を仮想空間へ相互に反映し、シームレスな動作環境を実現する。

配当の方針

配当性向40%を目安とし、前期比で每期増配の方針

2025年3月期は、業績見通しの上方修正に伴い、配当予想を期初予想の1株当たり90円から97円に修正。



ご参考: ニュースリリース一覧(2024年6月~2024年11月)

2024年			
6月13日	ラジオNIKKEI「ザ・マネー」に代表取締役社長 櫻井が出演	9月28日	ラジオNIKKEI & プロネクサス共催「企業IR & 個人投資家応援イベント」(大阪)にて企業IRセミナーを開催
6月17日	<u>【共同研究】大阪大学の量子コンピュータ・クラウドサービスで動作する、量子計算と古典計算の協調処理を高速化する機能を開発</u>	10月15日	<u>大阪大学量子情報・量子生命研究センターとセック、量子プログラムを高速化するマルチプログラミング機能を開発</u>
7月 1日	<u>「2024年度 第1期 世田谷ITカレッジ」を開講</u>	10月21日	<u>XR・メタバース総合展 に出展</u>
7月17日	<u>「楽しみながら宇宙を体験できる宇宙フェス」に協力</u>	10月25日	<u>当社が開発・デザインに協力した旺文社の教育アプリ「受験生のための英検®カコモン」がグッドデザイン賞を受賞</u>
7月30日	<u>当社が支援しているアストロスケールの商業デブリ除去実証衛星「ADRAS-J」が世界で初めてデブリの周囲の飛行に成功</u>	10月29日	<u>第68回宇宙科学技術連合講演会にて宇宙ロボティクス技術に関する論文を発表</u>
8月13日	<u>変形型月面ロボットLEV-2(愛称:SORA-Q)開発における貢献が評価され、JAXAより感謝状を贈呈</u>	11月13日	<u>NIHONBASHI SPACE WEEK 2024 に出展</u>
9月 6日	<u>「2024年度 第2期 世田谷ITカレッジ」を開講</u>	11月13日	<u>AI・人工知能EXPO に出展</u>
9月 9日	<u>群馬県主催「IoT・AI活用人材育成講座」を実施</u>	11月13日	<u>JSCAS(日本コンピュータ外科学会) AI Challenge で入賞</u>

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものではなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。